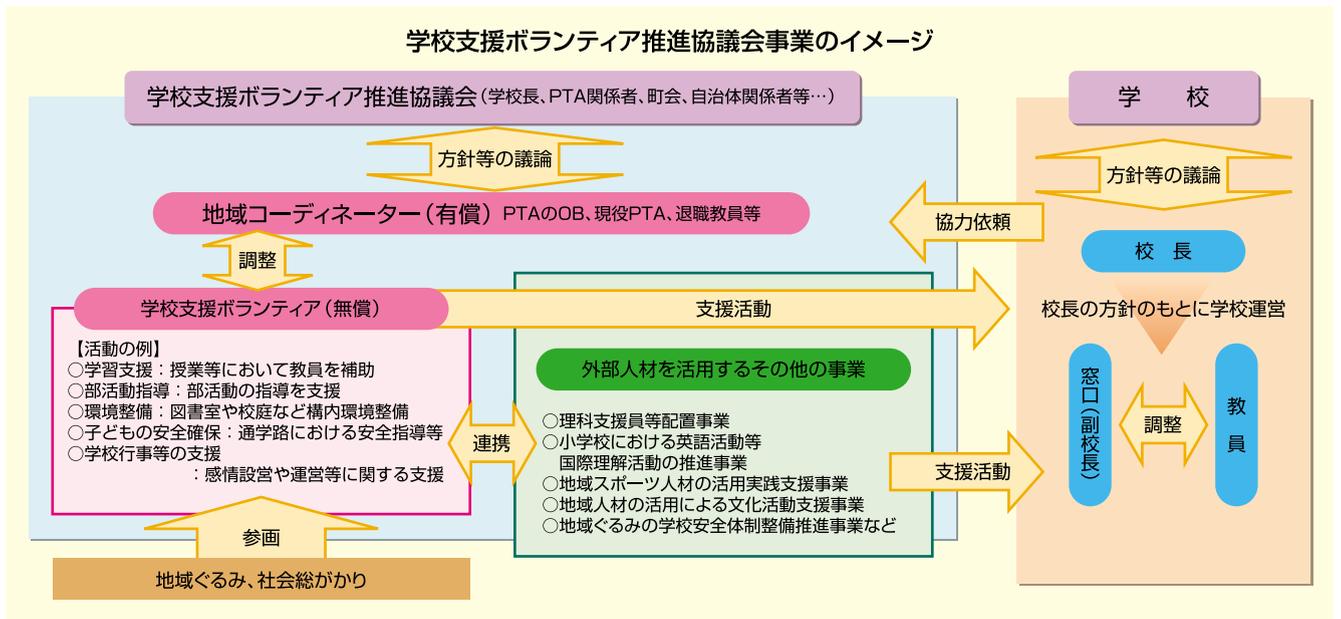


地域が支える学校の応援団 いま活動中!

—学校教育支援の活動を通じて、地域全体で子供を育成する取組が都内で展開されています—

東京都教育委員会では、平成20年度から国の事業を活用し、「学校支援ボランティア推進協議会事業」という学校と地域の連携・協働の仕組の下で、地域の多様な方々が積極的に参加して、学校の教育活動を支援する取組を進めています。いわば、地域における学校の応援団の仕組づくりです。この取組を実施していくには、学校や地域の実情に応じながら、学校の求めと地域の力を効果的につないでいくことが必要であり、その役割を担う地域のコーディネーター*の存在が大切です。

現在、都内約230校の小・中学校(20区市)で、学習支援活動、部活動支援や学校の環境整備など、学校や地域の実態に応じた活動が行われていますが、今回は、その中の2つの小学校の活動の様子を紹介します。



1 新宿区立四谷第六小学校—異世代間交流を通じて学校教育支援活動の推進—



新宿区立四谷第六小学校(高橋英明校長)は、JR総武線千駄ヶ谷駅から徒歩5分の都心の学校ですが、新宿御苑や神宮の森にも近く、今年から校庭の全面芝生化を進めたこともあり、緑あふれる学校です。

昨年度から「学校支援ボランティア推進協議会事業」を活用した教育支援の仕組づくりを進め、現在、グリーンボランティア(環境整備の応援)、セーフティボランティア(安全確保の応援)、スタディボランティア(学びの応援)など、地域の方々の力を生かした取組を進めています。

この事業を進めていくための基盤になったのが、地域の高齢者を中心に組織された「六小会」です。「六小会」は、毎月6の付く日に学校へ行って様々な教育支援の活動を行っています。2時間目と3時間目の20分間の「中休み」に昔遊びなどを小学生に教えたり

する異世代交流活動に協力しています。

また、四谷第六小学校では「いのちの学習」を研究主題に取組を進めています。「いのちの学習」は主に1年生から6年生までの各学年の生活科や総合的な学習の時間を活用して行われていますが、「六小会」ではこれらの活動にも積極的に協力しています。

現在の代表者である甚野公平さんは元PTA会長を務めた経験があり、学校と地域の両方を理解した上で、本事業のコーディネーターの一人として学校のニーズを踏まえながら地域の方々の教育参加の調整等に活躍されています。

また、今年から校庭の芝生化を実施したこともあり、「六小会」でも芝刈りの活動を行うとともに、PTAが中心になった「芝刈り隊」も組織され、四谷第六小学校の子供たちの教育環境を整備する活動の支援が拡大しています。

地域の方々の協力を拡大するため、地

